

授業改善プラン

地域名	東葛飾教育事務所	学校名	鎌ヶ谷市立第五中学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 全国学力・学習状況調査において、令和4・5年度とも数学の平均正答率は千葉県・全国を下回っている。令和5年度は問題形式別に見ると選択式・短答式の正答率は千葉県・全国を上回っているが、記述式の正答率が低い。8(3)のような、問題文に複数の図・表・グラフが資料として入っており、与えられた条件を使って答えを求める方法を説明する記述問題の無解答率が高い。
- 令和4年度の問題の最後に設問された“調査についての質問”では、言葉や数、式を使って説明する問題について「解答しなかったり、解答を書くことを途中であきらめたりしたものがあつた」、「全く解答しなかった」と答えた生徒が半数を超えている。一方で、解答時間については多くの生徒が「時間が余つた」、「ちょうどよかつた」と答えている。数学的に説明することについて、授業で取り組む必要がある。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 基礎学力を定着させ、自信を付けさせることによって、問題文の長い問題や記述式の問題に取り組む意欲が高まると考える。
- 授業のまとめを生徒に考えて書かせることを繰り返していくことで、諦めずに考えたり記述したりする力や、わかりやすく説明する力が付くと考える。

3. 具体的な実践

- 授業のまとめを生徒に自分の言葉で書かせる時間を確保する。抽出生徒のノートの記述内容から、生徒の変容を分析する。
- 記述式の問題を授業で扱う機会を増やす。単元テストで記述式の問題を出題し、結果を分析する。
- 毎時間小テストを実施し、基礎問題を繰り返す。デジタル教科書やeライブラリを活用する。

4. 成果

- 生徒の授業のまとめが、感想のような記述が減り、数学の用語を使った記述が増えた。また、問題を解く場面でも、自分の解き方や考え方を言葉にして書いたり、異なる考え方をノートに書いたりする生徒が増えた。
- 単元テストの記述式の問題で、2年生は数学的に説明できる生徒が増えた。1年生は無解答の生徒が減つた。

◆担当指導主事から（東葛飾教育事務所 指導主事 竹蓋 大毅）

- 課題である記述力を高めるために、実践モデルプログラムを意識して自分の言葉でまとめを書かせる取組を年間通じて行つてきた。数学的な用語を用いた説明を行うことができたり、無解答の割合が減つたりしたことは大きな成果である。加配教員を活用した少人数授業やT Tが大変効果的に機能しており、生徒の資質・能力向上につながつた。